

今月の重点活動

■だいこん **スマート農業機器の試用実施**

1月8日、JAぎふ則武支店において、だいこん部会の役員会が開催され、2月に行われる総会（紙面にて開催予定）に向けて内容や行事計画の検討が行われた。役員会終了後には、スマート農機貸出事業で借受けたアシストスーツの試用を行った。ATOUN MODEL Y(ATOUN社)とEvery(INNOPHYS社)をそれぞれ着用し、作業性や腰への補助力を確認した。9日以降だいこんの収穫・荷積み作業を2名の役員で1週間毎に試用する。農業普及課では試用効果の調査・確認を行った。



【動作を確認する役員】

(園芸産地支援第一係・横田 京子)

多様な担い手づくり

■いちご **青年等就農計画認定検討会の開催（各務原市）**

1月18日、各務原市役所にて青年等就農計画認定検討会が開催された。会議では、全農ぎふいちご新規就農者研修所の研修生1名が、来年6月に各務原市鵜沼地区に就農を希望しているため、その就農計画の妥当性について検討を行った。

出席した地元指導農業士、女性経営アドバイザーからは、就農時の労働力や施設の概要についての確認とともに、先輩農業者として就農に向けた助言もされていた。

各務原市では、研修所を卒業しての新規就農は、今回で7人目となる。

農業普及課では、新規就農者が地域に定着できるよう、関係機関と連携し支援をしていく。

(園芸産地支援第二係・三和 浩一)



【検討会の様子】

売れるブランドづくり

■栗 **山県市で剪定研修会を開催**

1月14日に、山県市の栗生産組合を対象とした剪定研修会が開催された。現地栗園を会場に、中山間農業研究所中津川支所の研究員と果樹担当の農業革新支援専門員より剪定方法の実技指導が行われた。研修会には栗生産組合の構成員の他、山県市の栗に興味を持ち、剪定技術を学びたい就農希望者1名も出席し、合計30名が2グループに分かれて、熱心に「利平」、「筑波」の剪定を学んだ。本研修会において、農業普及課からは栽培暦と貯蔵試験の結果を提供した。今後も生産安定、出荷量増加、栗のブランド化をめざし情報提供や指導を行う予定である。



【剪定指導の様子】

(地域支援第三係 河合 浩子)

■花き **管内花き消費拡大キャンペーンを開催**

1月29日、ふれあい会館において館内県職員を対象に、管内花き消費拡大キャンペーンを開催した。管内の花きをPRし、新型コロナウイルスの影響が大きい花き生産者を応援することが目的で開催しており、今回は各務原市で生産している商品（ブルーデイジー、カランコエ等）を販売PRした。

農業普及課では、管内花きのPR活動と経営支援を継続していく。



【管内の花きをPR】

(園芸産地支援第一係・福田 富幸)

■アスパラガス 保温開始に向けて準備中

岐阜地域のアスパラガス生産ハウスでは、2月の保温開始に向けて、刈り取り・焼却処理・畝立て等の準備作業が始まった。

昨年は梅雨が長かったため、斑点病、褐斑病やハスモンヨトウの被害を受けたハウスが多く、また、11月から12月にかけて平年より降水量が少なかったため、糖分が根に十分蓄積されているか懸念される。

今後、アスパラガスの立茎開始時期・春芽収穫期間と保温期間を想定して保温開始日を決め、保温を開始する。

農業普及課では、アスパラガスの安定生産に向け、栽培管理の指導や情報提供を行っている。



【アスパラガス全刈りの様子】

(園芸産地支援第一係・佐藤 博)

■かき 早秋・太秋剪定講習会開催（岐阜市）

1月22日に、岐阜市柿共販振興会主催による早秋・太秋剪定講習会が開催され、果樹担当の農業革新支援専門員より早秋・太秋の実技指導が行われた。

昨年は連続した曇雨天の影響もあり、早秋では生理落果が多く発生した。また、炭疽病の発生もあり、収穫が皆無となる園もあった。そのため、農業普及課より授粉樹の適正配置や剪定時の越冬病斑切除などの対策について説明を行った。

今後も早秋・太秋の安定生産に向け、指導や情報提供を行っていく。



【剪定講習会の様子】

(園芸産地支援第二係・小枝 俊仁)